

古文書から知る潜伏キリシタンの実像

【その5 明らかにになった
潜伏キリシタンの風習(下)】

文化2年(1805)3月、幕府の取り調べにおいて崎津村の善吉や周平ら、潜伏キリシタンのリーダーたちは、潜伏キリシタンの「日練り」(曜日)についても興味深いことを語っています。

一、毎月1日から7日目ごとを、「祝日」として、鍛冶など(仕事)をしないようにします。1日目から順に「ドミンゴ」、「シクミ」、「テリシヤ」、「クハルタ」、「キンタ」、「セツタ」、「サバタ」と呼びます。7日目に「サントメ、サントメ、ミチのサントメ、不慮のわずらい、とんしのとがめ、悪事災難無きように」と唱え、8日目にまた1日目の「ドミンゴ」に戻ります。

「ドミンゴ」「クハルタ」など潜伏キリシタンの「日練り」の語源はどこにあるのでしょうか？

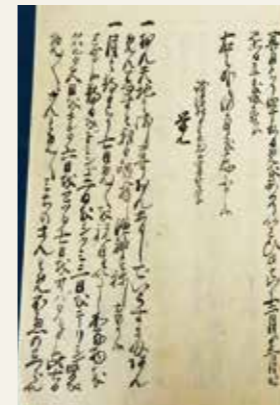
実は、ポルトガル語で日曜日を「Domingo」、水曜日を「Quarta」とつづります。崎津村の潜伏キリシタンは、戦国時代にポルトガル人が伝えたと思われるポルトガル語の曜

日を、200年近く、秘密裏に伝えてきたのです。
同じような日練りは、今富村・大江村でも伝えられ、村ごとに少しずつ内容が異なります。

今富村	大江村
1 「ドミンゴ」	1 「ドミンゴ」
2 「シクミ」	2 「シクミ」
3 「テリシヤ」	3 「テリシヤ」
4 「キンタ」	4 「キンタ」
5 「クワイタ」	5 「セツタ」
6 「精進サバタ」	6 「サバタ」
7 「精進セツタ」	7 「祝い」の日

このような変容は、潜伏キリシタンが少人数の信仰組織内で密かに、口頭で風習を伝えてきたために起きたものと考えられます。

古文書にすればたつた数行。潜伏キリシタンが語った風習・信仰の内容には、キリシタン時代の天草の人々が、ヨーロッパから受け入れた文化が確かに息づいています。



▲崎津村の曜日を記した文書(上田資料館所蔵)

キラリ
天草人

須子ロード・クリーン
ボランテニア

(有明町)



花いっぱいの宝島天草に

「できるときに、できることを、無理なく、少しずつ」そう活動のモットーを話すのは、須子ロード・クリーンボランテニア会長の濱崎誠さん。同会は、地域の国道沿いの植樹帯や空き地が雑草で覆われているのを目にした濱崎会長が、須子地区を花いっぱいのふるさとにしようと呼び掛け、平成25年に30人の会員で結成。振興会をはじめ、有志の皆さんの協力を得て、現在は約50人で活動している。月に2回の活動日を基本に、合計約800㎡の花壇を市や県、民間企業の支援を受けながら管理しており、季節ごとに色とりどりの花を植え、除草や水やりの手入れをこつこつと続けてきた。

その結果、今年5月には花と緑の愛護に顕著な功績のあった団体を表彰する「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞。活動が評価されたことを会員全員で喜んだ。

現在は新型コロナウイルス感染予防のため、集まる活動は自粛しているが、地域の花壇を「自分の庭のようなもの」と自主的に手入れしてくれる会員のおかげで、今も継続して活動ができていくという。90歳を超えても「できるし」と言って手伝ってくれる人もいて、感謝に堪えないと濱崎会長。「花壇を通った人が、車を止めて写



1 地域の子どもたちと花植え 2 活動後のお茶会「花カフェ」も楽しみ
3 大臣表彰の受賞を中村市長に報告する濱崎会長(中央)と松本副会長(右)

真を撮ってくれるのを見ると、とても誇らしい」とやりがい語る。
花づくりを通してふるさとを大切に思う気持ちを育ててほしいと、一昨年から子どもたちと一緒に有明町特産のたこつばに花を植え、スクールバスのバス停に設置している。
「この活動が他の地域にも広がり、世界遺産の島にふさわしい美しい天草になってほしい」と思いを語る濱崎さん。そのために、まずはここからと、地域が一体となり美しい花々でおもてなしを続けていく。

天草 見どころ図鑑



かみか ▲神掛けの滝(新和町)

新和町の浪床地区にある神掛けの滝。高さ15m幅15mを誇る天草では最大級の大滝です。

風化・侵食に強い砂岩でできた崖を横切るように水が流れ、地面を削り、長い時間をかけて少しずつ滝の高さが高くなっています。

★見どころポイント

滝を裏側から見ることができ、神秘的な雰囲気を楽しむことができます。そばに祀られている不動明王には無病息災を願う参拝客が訪れています。